

## (20) 教室を運営していく上での課題

### ① 教室運営や学習支援活動の課題

複数回答可(教室)

		全体
ア	学習支援者の人数が不足している (学習支援者の確保)	67
イ	学習者が不足している (学習者の確保)	65
ウ	学習支援者が高齢化している	107
エ	運営に係る費用が不足している	37
オ	学習者と学習支援者のマッチングが 難しい	33
カ	学習支援者の学習機会が不足している	42
キ	教室の周知・広報が不足している (できていない)	57
ク	学習教材が不足している	23
ケ	多様化(国・レベル・ニーズ等)する 学習者への対応が難しい	48
コ	学習者が流動的である (学習者が定着しない)	70
サ	学習支援者が流動的である (学習支援者が定着しない)	3
シ	人権意識をどう向上させるか	21
ス	特にない	8
セ	その他	29
	記述・選択なし	6

(その他の回答)

- ・オンライン指導が長期化しコミュニケーション力を育て辛い
- ・安定的な学習場所の確保(コロナの影響で安定した会場確保が困難)
- ・学校や教育委員会との連携をより深めること
- ・これまで以上に、学習支援者、学習者の学びの意欲を向上できるよう工夫が必要
- ・地域に潜在する学習希望者の掘り起こし
- ・学習者の高齢化
- ・学習者にとって費用が無料ということで教室を安易にとらえ欠席等の連絡がないことがある
- ・学校を通じてもっと教室の周知ができるのではないか
- ・行政担当者の識字についての学習を求める
- ・運営を継続していくための費用や人材の確保が難しい
- ・日本語学習を必要としている人への情報提供
- ・外国人の方への対応が不可欠になってきており、日本語教室と識字教室との線引きが難しい
- ・現在、技能実習生の労働条件が厳しく、継続して学習ができない
- ・高齢者が多いため、長期にわたる休講明け時に以前と同等の体力や学習意欲が残っているか、また取り戻せるのか若干の不安
- ・学習者の就労支援等 企業の協力
- ・オンライン上での著作権について理解の共有ができていないので研修をしてほしい
- ・収入面での健全な教室運営や学習者の対面受講希望に応えられないことが発生している
- ・オンライン学習に対するサポート
- ・同和問題、人権問題をさらに取り組むべき

## ② 学習者が困っていること(自由記述)

- ・幼稚園・保育園の情報、子どもに関する情報全般
- ・夫婦関係
- ・ビザ
- ・学習者から困っていることについて聞いたことがない
- ・コロナ禍で帰国待機者が増えている。また、日本人と会話する機会(時間)が少ない
- ・家にWi-fiなどインターネット環境が整っていないため、オンライン授業に参加できない学習者がいる
- ・当教室の立地的な問題もあり、1人で教室まで来ることが難しい
- ・現在、対面とオンラインの併用で教室を運営しているが、小学生低学年などがオンラインで参加する場合、保護者のサポートが必要となるが、サポートが難しい場合、子どもが参加したくても参加できない状況などもある
- ・学習支援者の高齢化と学習者の減少
- ・母語の学習を十分に受けられない
- ・コロナ禍で学習が度々中断されていること(コロナで教室の休講が続いていること)
- ・コロナウイルスが心配で学習に行けない
- ・オンライン学習を行うための環境がない
- ・オンライン学習に切り替わっているが、強く「対面学習」を望む学習者がいる

- ・夕方に学習できる教室が少ない(昼間は仕事をしているため)
- ・仕事がつく落ちていて日本語を学習習得する余裕がない
- ・両親、もしくはどちらかが外国人家庭の子どもが、日本語が母語になり親の母語がうまく話せない
- ・病気になった時、日本語がうまく話せなくて困ったり、情報を得るのが困難
- ・気軽に法律相談できる場所がわからない
- ・防災に関して、言葉が難しすぎて理解できない。避難場所も知らない、警報・注意報などの正確な意味がわからない
- ・平日夜間・土日の教室が少ない
- ・日本語の会話が難しい
- ・学校年齢の子どもたちの学校への適応支援
- ・学習回数が少なくて、学習がはかどらない
- ・働きながら学んでいる学習者は、学習時間の確保が難しい
- ・日本語を十分に理解できないために、市民としての日常生活に支障が起こることがある
- ・近隣の日本人と親しくなるのが難しい(孤立しがちになる)
- ・週1回の開催なので、もっと開催日を増やして欲しい
- ・コロナ禍の影響により会社から外出を禁じられ、教室に来ることができない(代替案としてZOOMにて配信事業を何度か試みたが、受け手側である学習者の回線の不具合で十分に授業を受けていただくことが出来なかった)
- ・テキストと普段聞く日本語の違い。大阪弁は早く短いので、分からないという人が多い
- ・日常で日本語を使う機会が少ない
- ・日本語はとても難しく、なかなか聞き取れないようです
- ・自由に電車に乗ったり、外出・買い物などができない
- ・仕事や家庭状況による学習時間の確保
- ・週1回なので、仕事の都合等で参加出来ないと間隔が開いてしまう
- ・高齢化に伴い、病気や手術、入院、足腰の衰えなどのため、学び続けたくても、教室に通えなくなることもある
- ・分かりやすい教材が求められる
- ・コロナ禍における仕事の不安
- ・ワクチン接種会場になったことでロビーの使用ができなくなり、居場所が減少
- ・コロナ禍で仕事が少なくなり、他の職場とかけもちしている人がおり、土曜日の夜に教室を設定しても参加しにくくなっている
- ・日本人の友だちがあまりいない
- ・相手の話していることはわかるが、自分の言いたいことが言えない
- ・教室がせまい
- ・保育、ワクチン接種などに関する多言語の案内が少なく、サービスも受けるのが難しい
- ・ひきこもり
- ・学校や役所など、公的機関から送られてくる書類の日本語が難しくてわかりにくい
- ・学習者の希望する時間帯とボランティアの希望する時間帯がミスマッチ
- ・普段漢字を使わない国の学習者が漢字の習得に困っている
- ・「母語喪失」母国との教育制度、社会制度の違い など帰国した場合どうするのか

- ・感染防止対策のため、アクリルパーテーションを挟んで「対」の学習となっているので、コロナ以前のようにグループでの活動ができなくなった
- ・コロナの影響による対面からオンライン授業の切り替えに対する戸惑い
- ・入門者対象の「初級1」、「初級2」クラスは、オンラインでの実施が困難
- ・学習者が減少しており、学習者同士の交流が難しい
- ・行動が制限されているので、孤独感を感じている
- ・日本語を話す機会が少なくなっている
- ・多言語情報が少ない
- ・密を避けるため学習者の人数制限を行い、事前申込登録制を導入し、いつでも参加できる状態ではなくなった
- ・対面での実施にコロナ感染のリスクを感じている
- ・コロナ禍のなか、教室が休止となり、参加できないことが大きなストレスとなっている
- ・いったん帰国して再来日が果たせない学習者もいる
- ・就労面では大きな影響を受けており、教室に通えなくなった学習者や帰国を余儀なくされた学習者も存在する
- ・併設の保育ルームがコロナのため閉鎖しているため、乳幼児を連れていけない
- ・グループレッスンのため自分に合ったクラスがない
- ・勤務先の企業の中で交わされる日本語が十分理解できない
- ・企業文化に十分になじめない
- ・対面での会話練習などオンラインだと通信環境のストレスで会得しにくい学習があるので対面授業が希望だが叶わない
- ・オンライン学習用の機材がないのでスマートフォンで学習しているなど、オンライン学習のための最適環境を用意できない
- ・教室休講下での学習の保障
- ・医療の情報（ワクチンの予約等）が不足していて不安